

### ユネスコ会員綱領

心の中に平和の守りを固めよう  
 すべての人間の尊厳を重んじよう  
 教育・科学・文化の発展に努めよう  
 民族間の疑惑と不信を除こう  
 世界を友愛と信頼のきずなで結ぼう

## 「友好・平和」改めて誓う

### 姉妹協会北京代表団広島へ

日中ユネスコ交流のきずなが  
 今秋の中国側一行の来日、来広  
 によって、一段と強化されまし  
 た。

この基に、姉妹協会代表  
 団の今年十月八日、中国代表  
 団の今年十月八日、中国代表  
 団の今年十月八日、中国代表

特に平和と教育について強い関  
 心を示して視察と学習に意欲的  
 にとりくみました。

訪中団は、広島に友好と平和  
 のひたむきな姿勢を印象づけ  
 て、広島をあとにしました。今  
 来年は、広島から代表団を編成  
 して訪中し、さらに友好を促進  
 する計画です。

## 人間同志を迎えて

広島ユネスコ協会会長 河村 盛明

広島ユネスコ協会と北京教科  
 文倶楽部(ユネスコクラブ)と  
 の間に成立した姉妹協会締結書  
 にもとづく、日中交流計画の第  
 一年目を迎え、去る十月八日、  
 中国代表団一行七名を広島へ迎  
 えた。

学を加えたそれに歓迎夕食会、  
 レセプションなど、夜はよびよ  
 過密なスケジュールとなつた  
 が、一行は終始元気でこのやが  
 り、ユネスコ協会会員と市民と  
 交流し、日中友好のまなざしを  
 歩を記した。

私たちが一番心配したのは、  
 大分門事件による影響で、政治  
 体制の引き締まりが、我々の関  
 の意識のすれが生じていること  
 はないかという点であったが、  
 一切そういう点はなく、蔣団長

訪中団は、広島に友好と平和  
 のひたむきな姿勢を印象づけ  
 て、広島をあとにしました。今  
 来年は、広島から代表団を編成  
 して訪中し、さらに友好を促進  
 する計画です。

一行は北京市の教育関係者で  
 編成されているので、広島での  
 スケジュールはその点に留意し  
 て日程を編成、広島大付属高校  
 見学、平和公園見学に、折から  
 開催中の「海と鳥の博覧会」見

私たちが一番心配したのは、  
 大分門事件による影響で、政治  
 体制の引き締まりが、我々の関  
 の意識のすれが生じていること  
 はないかという点であったが、  
 一切そういう点はなく、蔣団長

訪中団は、広島に友好と平和  
 のひたむきな姿勢を印象づけ  
 て、広島をあとにしました。今  
 来年は、広島から代表団を編成  
 して訪中し、さらに友好を促進  
 する計画です。

訪中団は、広島に友好と平和  
 のひたむきな姿勢を印象づけ  
 て、広島をあとにしました。今  
 来年は、広島から代表団を編成  
 して訪中し、さらに友好を促進  
 する計画です。

「平和と友好の輪を」  
 蔣団長歓迎レセプションで挨拶  
 広島ユネスコ協会ならびに広  
 島市民の皆さんの熱烈なご歓迎  
 に心から感謝します  
 広島は原爆投下による被害を  
 受けましたし、中国も戦争の被害  
 を受けました。したがって、  
 両国民ともに平和を実現するこ  
 との意義を深く知っており、ま  
 た平和の維持に対して責任を自  
 覚しています。

### 老朋友来たる

副会長 加藤 朗一

昨年訪中して北京市協会と広島協会との友好姉妹関係の締結調印式に臨んだ私にとって、このたび訪日団を広島に迎えて、感慨深いものがあった。

広島での歓迎レセプションの会場。団長の蔣寛先生は笑顔でたたえて登壇、今年の北京で起きた、あの歴史的事件への慮りを抱く私共に、明るい姿をもってユネスコの友好の実を示された。

冒頭の謝辞——「この多くのユネスコ会員および市民の熱烈な歓迎に接し」ということばの中に儀礼だけでないものがあり、広島を文字どおり「老朋友」として心にとめられたのではなからうか。

挨拶の核心では、日中友好の原点として「そこにはお互いの戦争の惨禍体験がある」と言及された。このレセプションに先立って訪ねられた平和公園で、ヒロシマ原爆の惨禍を痛感されたことであろう。同時に、中国の受けた、あの戦争の惨禍についても想起されたのであろう。「過去の歴史はこれを将来への

反省としてこれを活かしてゆかねばならない」、これは中国が日中友好の基点としてとる立場である。このことを言外に宿されたことと思われる。

挨拶の最後の結びのことばは、「はじめまして、どうぞよろしく」という日本語であった。(これは、昨年十月、われわれ訪中団を案内された途次、蘭州の空港で、訪中団員信井夫人より習い覚えられたものである)

### レセプションで

会員 平岡豊恵

北京ユネスコクラブ代表団の蔣団長さんを含め七名の方々をお迎えして楽しいレセプションが始まりました。蔣団長さんの笑顔の美しい挨拶、次々と紹介される団員の先生方の明るさに、とても親しみを感しました。

テーブルに一人の団員の先生方がおられ、私達のテーブルには馬羨秋先生でした。馬先生はテーブルに集った方々に、ひとりひとり笑顔で挨拶をされて、プレゼントを下さいました。そのプレゼントは子ども達のクラブ活動で作った手づくり人形や壁掛け等々すばらしく手に入った作品ばかりでした。

時間が短かったこと、十分に話が出来なかったことのため内容的にはあまり沢山聞けなかったのですが、中でも驚いたのは、北京での女性校長が多いことでした。広島市内では百三十校に対し六人の女性校長しかいないため、全体の2パーセントに対し、北京では60パーセントが女性校長と聞いて私達も頭張らなくてはと元気づけられたことでした。

私もアメリカ合衆国で六十日間のホームステイをしながら、学校訪問をさせていただいたことがありますが、アメリカ合衆国も女性校長がほとんどでした。また馬先生と話している中で、家庭の教育力の低下を憂うことを話したら、馬先生も体を乗り出されて強く共感され、私達の親への声かけ教育への正常化を考え直していくことを話しておられました。

そして来年は何とかして北京へ行こうと思うと話しますと、蔣団長さんにも私が北京に行きたいと言っていることを話され、蔣団長さんもまた「待っているから」と握手して下さいました。再会を約束しながら握手をした先生方の手の感触は今でもはっきり残っております。  
(広島市立鈴張小学校長)

### 中国代表团

スナツプ

### 代表団の皆さん

- 団長 蔣寛(北京市ユネスコクラブ副主席、北京市教育局外事処処長)▽副団長 艾方林(国家教育委員会社会教育調研員)▽団員 徐順義(北京市八一中学校校長) 陳万倉(北京師範大学附属実験中学校副校長) 馬羨秋(北京市宣武区師範学校附属第一小学校校長) 那淑芳(北京市西城区少年宮主任) 白家瑤(中国教育国際交流協会)



蔣団長を中心に記念撮影



レセプション

代表団を前に挨拶をする河村盛明広島ユネスコ協会会長(写真右)。当日は広島市、日中友好協会、教育関係者など約90人が出席。席上、巴金書による軸、西条農業高校紹介スライド(広島ユネスコ協会)が中国向けプレゼントとして紹介された。



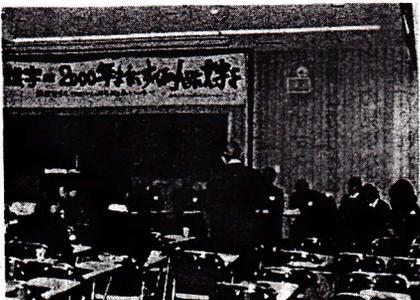
# 継続こそ力

## 第12回ユネスコ高校生のつどい

常任理事 永田龍男

「たとえ少数人数のごく内輪のものになっても、やりましようや」、加藤朗一・広島ユネスコ協会副会長のこのひと言で心が決まった。

去る十一月二十三日、勤労感謝の日に「第十二回広島ユネスコ高校生のつどい」を広島大学附属高校研修館、第一研修室で開催した。参加者数わずか二十二名。十周年を記念して広島市国際交流協会との共催により、



〈高校生のつどい

(広島大学附属高校)〉

姉妹都市派遣高校生との発表の場として五十名前後がつどった昨年までに比べて、実に半数以下である。

すぐそのあとに次の予定を控えておられたにもかかわらずご来駕くださった河村盛明・広島協会長の開会挨拶をいただいたあと、「国際識字年を来年にひかえて」と題する広大附属高ユネスコ班長石丸雅邦君の研究発表がある。識字年制定に至る経緯、世界各国の識字率の分布、非識字者の現状およびその依って来た原因、今後の課題について、

一年生ながら手際よくまとめられた報告であった。目をあげれば会場正面に「識字二〇〇〇年までにすべての人々に文字を国際識字年(一九九〇)からの十年間を私たちの手で」の横断幕。昨年までの「アフリカに緑を」に代わって、広大附属高の書道科教官の揮毫をもとにした生徒の手造りによるものである。続いて広大文学部文学研究科に

学ぶ中国からの留学生、饗道栄氏による「中日両国語の字体と語義の差異」について、特にコミュニケーションの場での誤解を防ぐための貴重な講話があった。流暢な日本語で、多くの具体例をひいての明確な解説であった。氏には第六回つどい以来、おおよそ毎回講師としての参加をいただき、深いご縁を思う。

加藤先生からの「募金参加の意義と心構え」についてのお話を聞き、持参の弁当を開いたあと、コーアクション活動としての募金のために、そろって師走前の街角に立つ。例年どおり広島さごう前で道行く人々に呼びかけるのだが、初めはなかなか声が出ない。幼い女の子が固く握りしめた十円玉を募金箱に落としてくれる。少し離れたところに母親の笑顔。「ありがとございます！」、思わず声が出る。「アジアの子供たちに教科書を送りましょう」「開発途上国の自立を支援しましょう」「おねがいしま—す」、やっ」と声が高くなる。二時間で寄せられた浄財三〇、七九一円也。県庁内の空地で集計発表、加藤先生の講評をいただいたのち、それぞれ、心の中にちよっぴりぬくもりを味わいながら家路に散っていった。

### 中国代表团・日程

〈10月〉

8日 広島到着

広島ユ協と交流

9日 広島大附属高校訪問

広島市教委表敬訪問

原爆慰霊碑献花

平和記念資料館見学

被爆体験を聞く会

広島市現代美術館

歓迎レセプション

10日 海と島の博覧会見学

広島駅出発

### 〈広島大学附属校訪問〉

中国の英語教科書などをみやげに訪れた一行は、太鼓矢副校長から学校の概要を聞いたあと授業参観へ。

(写真右)

### 〈平和記念資料館見学〉

平和文化センター、高橋昭博氏(左から4人目)の案内、解説で被災の実相を。

(写真中)

### 〈広島市教育委員会

表敬訪問)

蔣団長「ユネスコと教育の交流を深めたい」と挨拶。これを受けて鍋岡市教育長「アジア大会の成功を！」

(写真左)



高校生の、とくに文化系クラブ離れが顕著な昨今、協会としても他の関連団体との共催プログラムを真剣に検討すべき時期にきていることを痛感させられた一年であった。とは言え、多くの方々に支えられて、細々ながら私たちのつどいは続けられている。中でも、ちらしの作成に加えて、募金してくれた子供たちに手渡すマスコットを、多くの時間と労力をかけて、色とりどりの見事な造花として多数仕上げてくれた広島第一女子商業高校ユネスコ部員の努力に心から敬意を表したい。広大附高とともに、参加者のはとんどは一年生であった。ともすれば落ちこみがちな私たちの気分を光を点じてくれたのが彼ら

〈街頭募金活動〉

広島市紙屋町



の真摯な眼差しと、加藤先生カヒと言である。まさしく継続こそ力。第十三回をめざす牛歩の中に彼らの成長と活躍を見守りたい。

(広島大学附属高校教諭)

# 一杯のコーヒーと世界の話

## 国際交流サロンさらに充実

杯のコーヒーを飲みながら世界の話を傾ける「国際交流サロン」(原則として月一回開催。広島ユネスコ協会主催)がスタートして、ほぼ九二年が経過。いまではユネスコの文化的な定例行事として定着し、会

員の方にも好評を拍しています。各回ご登場の講師も美術界、官界、学界、経済界など多くの分野にまたがり、したがって、講演主題もアジア、欧米、南米などを舞台にして興味に富んだ

ものになっていきました。

サロンの開催は、土曜日の午後、時(予約)時間、会場は広島市本通りインテリビルなど、いろいろパターンを定着させています。会費はお茶代を要する予定です。本年四月以降の月額は、

とおりです。  
 □4月8日「アルゼンチンの音楽事情」フランカ・ベニヤルタ・ウイウタ・シオルマニエ氏(アルゼンチン・作曲家)  
 □5月27日「古代シルクロードと日本」石田光孝氏(山梨安

子高校校長)  
 □7月に開催予定の「新書」イラスラムの立派な書架、

島大学文学部教授  
 □8月19日「最近の国際情勢について」丹波実氏(外務省条約局審議官)

□9月30日「国際交流について」ホアキン・M・バネサス氏(エリサベト音楽大学学長)

□12月2日「最近のオーストラリア事情」盛岡良之氏(オーストラリア大使館参事)

シビル広島市場長

### 新春特別サロン

1月8日(月)18時、インテリビル 国連ホール、ク本部行政官黒部謙一郎氏。

# ノエルベーカー氏記念碑 建立に広ユ協も一役

「ノエル」を通じて世界を知る求めつづけたノエルが種痘受済者、故ワイリー・フ・ノエル・ベーカー氏(英)の記念碑が広島市に建立されることになり、広島ユネスコ協会では発起人名を連ね、碑建立推進の一翼を担うことになりました。

広島市への記念碑建立は、同氏が生前五輪に関与して、同市の生誕百年目を機に遺族らから望で決まったものです。

「スポーツ人」としてのノエルは、五輪陸上競技のメダリストのほか五輪の英国選手団団長などの経歴の持ち主。東京五輪の時、「この核の時代の人類の最大の希望はオリンピック運動の拡大」と語り、一方、国連代表、大臣を歴任し、反戦反核運動に献身しました。その間、機会あることに広島を訪れ、広島への思いと平和へのメッセージを熱く語ってこられました。

記念碑は、氏の友人で彫刻家ワイアン・ワルター氏が制作し、ノエルが、戦中、広島に

ルのフロンズ製で、陸上のトラックでゴールする選手とノエル・ベーカー氏の顔が刻まれます。設置場所は一九九四年に開かれるアジア大会のバスケットボール会場の広島経済大体育館前で、碑は募金により、来年十月完成予定です。

### 国際交流サミット開く

11月18日

広島県内で活動している国際交流団体の「交流」を促進するための組織が動き出しました。

さる十一月十八日、広島商工会所ビルで「ひろしま国際交流団体サミット」設立総会が開かれ、広島ユネスコ協会から、信井正行副会長、事務局局長が出席しました。

会議では、アジア大会、国際空港を控えて国際交流団体の交流の場としてサミットが設けられた趣旨などの説明があったあと、役員、規約、事務局(財団法人ひろしま国際センター)、事業計画などが決められました。